

水友だより

横浜市水友会
横浜市保土ヶ谷区
宮田町一五七七
発行責任者 石井栄一
Tel 442-6954

2024年度事業計画及び、会計予算決まる 第44回理事会及び第20回臨時総会に於いて

横浜市水友会の2024年度事業計画並びに会計予算は、第44回理事会及び第20回臨時総会に於いて次のとおり承認されました。

1、2024（令和6）年度の受託事業について

①断水広報業務 ②配水管定期洗浄業務 ③相模原浄水場施設見学案内業務について

は、責任ある業務として展開してまいります。

なお、漏水調査業務については、係員の高齢化に伴い、今年度をもって撤退することとしました。

また、新規事業として、神奈川県内広域水道企業団から、相模原浄水場施設見学案内業務を受託しました。

第21回通常総会

多くの皆様のご参加を お待ちしております

一般社団法人横浜市水友会の第21回通常総会は、5月31日（金）午前10時から横浜水道会館で行われます。

総会では、左記の議題の承認をいただくことになっていきます。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

- 日時 2024年5月31日(金) 午前10時～
- 場所 横浜水道会館 大会議室
- 議題
 - 2024年度活動方針
 - 2023年度会計決算報告
 - 2023年度会計決算・監査報告
 - その他

①断水広報業務

各年度により年間業務数の変動もありますが、広報業務としての断水放送及び断水チラシ配布事業を堅実に履行してまいります。

②配水管定期洗浄業務

洗浄業務は、宅地等の状況変化等によって業務の変動はありますが、水道局との連携を密にしながら、職員時代に培ってきた専門的な知識と経験を活かすすめてまいります。

③相模原浄水場施設見学案内業務

浄水場経験者等広く会員を募り対応してまいります。

④仕切弁点検調査業務

5年度の途中から水道テクニカルサービスの下請けとして受託した業務であります。6年度に水道局から発注があれば、全力で受託できるように対応してまいります。

⑤その他

ア 高齢化社会の中で、労働意欲を持たれる水友会会員も増えてきており、今年度に於いても、水道

局OBとして個々の技術経験を活かせる業務依頼があれば、事務局として検討しながら積極的に協力できるように対応してまいります。

イ 水友会のホームページ

がリニューアルされ、事務局と会員間でのネット交換による新たな行事参加の呼びかけ等も行ってきており、身近な通信情報として、広く活用が図れるよう、会員側の利用促進に向けた指導・研修に努力してまいります。

2、各種専門部会等の活動について

活発な活動交流が図れるよう、各種専門部会や趣味の会と事務局との連携を強め、会員交流事業の充実に努めてまいります。

3、会員活動の具体化について

2024年は、「新春の集い」の開催で、スタートを切ることができました。年間活動計画に沿って会員の親睦と交流を深める各種行事を積極的にすすめてまいります。

また、各趣味の会の活動に対し積極的な助成を行い、多くの会員が集える魅力溢れる会の発展をめざし、下記のと

おり活動の具体化を図ってまいります。

①会員の近況や身近な話題を掲載し、自宅で待ち望まれる機関誌「すいゆう」

「水友だより」を発行します。

②高齢者が抱える身近な課題や政治情勢等、会員が集える時期などを判断しながら「学習会」を、総会等と抱き合わせながら開催して行きます。

③地域居住者の交流の場である県央、横須賀・三浦、横浜西部地区居住者会の年間行事の定着と、各居住者会地域での新規会員の参加の働きかけを、事務局との連携を強め対応を図ってまいります。

また、地域交流の年間行事への参加にあたり、事務局と地域役員との連携を深め、広く会員交流の場にもなるよう発信を強めてまいります。

④女性組織の「すみれ会」の活動について、引き続き、

会員相互での呼び掛けを強めながら、会員拡大に向けた取り組みとして、多くの女性退職者が参加しやすい「学習会」テーマを設ける等、事務局と連携しながら対応を図ってまいります。

【2面に続く】

麻雀班

第5回大会 塚原美夫氏 2年半ぶり4度目の優勝

水友会麻雀班第5回大会は、1月27日に関内「緑の館」で16人が参加して親睦・交流の楽しい1日を過ごしました。最終結果は、1組目の闘いで塚原氏が他を押さえて2万3千点のトップで、計11万9千点で逃げ切り、2年半ぶり4度目の優勝となりました。準優勝は最終戦で△3千点と粘った岸氏が計5万4千点で入り、3位は佐々木氏が4回戦の9位から3万5千点と頑張りトップになり計4万1千点で入賞しました。4位は伊

東氏が7位から躍進、5位は栗原氏という結果となりました。年間成績は、1位には優勝2回と準優勝・7位・4位と全ての大会で上位に食い込んでいる伊東氏が36万9千点で2位以下に19万点余の差を付けて年間優勝街道をばく進中です。2位は全ての大会で上位に入っている加藤彰氏が18万点、3位は今大会優勝者の塚原氏17万6千点と僅か4千点の差、4位は優勝と準優勝をした丸保行氏13万1千点、

5位・荒井守正氏11万3千点となっています。優勝争い伊東氏の独走状態ですが、3位入賞を巡る争いも熾烈なものとなってきます。厳しい最終戦で誰が入賞を果たすのか、こころ期待。

報 計

逝去を心からお悔やみ申し上げ
ご冥福をお祈りいたします。

伊藤十三男 様 (95歳)	令和5年11月8日ご逝去
戸沢克比古 様 (75歳)	令和5年12月21日ご逝去
伊藤 龍雄 様 (83歳)	令和6年1月22日ご逝去



遊 YOU

亡くなって知る 親の言葉

おふくろが交通事故で入院したので、親父の食事の世話をするために美家へ帰った。食事の世話と言ってもなんの料理もできないので、出来合いのお刺身とかを買ってきて、それをつまみに酒を飲みながら、親父といろんな話をした。おふくろには悪いけど、そのときは本当に楽しかった。親父は、「労働者は社会党だ」と言いながら、田中角栄が大好きで、角栄が捕まった時は「あいつは親不孝をした」とすごく悲しんでいた。また、帝国軍人と、お祝いだからが

口癖で、それを口実にお酒を飲んでた。あるとき、夕飯にチャーハンを作った。塩の量を間違えて、めちやくちやしよっぱくてひどい味だった。でも、おやじは全部食べてくれた。そしてひと言。祐ちゃん「今日のチャーハンには愛がなかったね。」と……！
親父からは、いろいろなことを教わった。そのことは今でも忘れていない。たとえば、「人がものをくれるということは、大変なことなんだ。だから決して忘れてはいけないよ。」昔、自分の家も貧しいのに、軍隊で部下だった人が困って訪ねてくると、いくらか渡していたと。おふくろが言っていた。

ある日突然、親父が「おれが死んだら、お前は必ず後悔する」と言った。絶対しない、する訳ないと言い返した。いや、「必ず後悔する」と。本当にそのとおりになってしまった。今、めちやくちや後悔している。なんでもっと親孝行しなかったのか、なんでもっとたくさん親孝行できなかったのか？？？ごめんね。本当にごめんね。
「そばにあつた存在のその温もり、僕はそう大馬鹿者だ」

「それを愛とよぶなら」より

by・Uru「彼誰」

は終わりを告げ、会員数は年々減少傾向となっています。
このように、定年制の延長や70歳前後まで就業できる職場が確保される雇用環境の下で、組織拡大に向けての良業も無く、組織継承という課題に向き合わなければならない現状ではありますが、退職した後の残りの人生を多くの仲間と楽しく過ごせる貴重な組織財産を維持・発展させるべく、現・退との連携を図りながら定年退職者及び再任用退職者等に対する入会の働きかけを強めてまいります。

【1面つづき】
⑤新規会員交流事業（趣味の会）として、会員から、土と触れ合い、収穫を楽しむ子や孫と自然を満喫する「田んぼの会」の発足が提起されており、新たな「趣味の会」の具体化を図るべく「NPO法人わくわくヴィレッジ」への入会参加を進めてまいります。

4、組織拡大の取り組み

定年制の延長が施行されるなど、高齢退職制度は年々変化してきており、定年退職者がこぞつて入会してきた時代